

サイト全体  検索

中央区  
北1条西20丁目

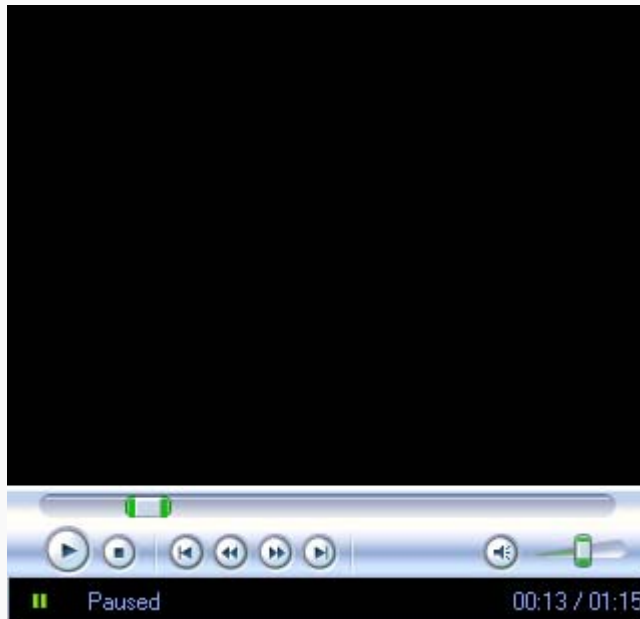
地下鉄東西線  
「西18丁目駅」徒歩  
(約230m)

ホーム ニュース 天気 動画 観光 温泉 グルメ イベント 住まい探し くるま プライダル 移住 ショッピング

動画TOPへ | ニュース | 企画・特集 | サミット関連 | ピヤラ | まつり・イベント | 旭山動物園 | キャンペーン

## 動画＝ニュース

### 東北大の地雷探査装置をクロアチアで初公開(2008/04/18)



※再生中の動画をダブルクリックすると全画面表示でご覧いただけます。

【シベニク(クロアチア南部)17日石井群也】

国連の地雷除去行動計画責任者会議が17日、クロアチアのシベニクで開かれ、東北大の佐藤源之教授(50)＝電波応用計測学＝らのグループが開発した、金属探知機に地中レーダーと小型カメラを一体化した世界初の小型地雷探査装置が初めて実演公開された。地雷の発見確率は従来の金属探知機の2倍に向上、国連は旧紛争地の安全回復の切り札として普及させていく考えだ。

同装置はALIS(エイリス、地雷イメージ化システム)と呼ばれ、地中の金属片を金属探知機だけでなく、レーダーも使って形を識別し、地中20センチまで立体的に画像表示

できるのが特徴。

公開されたのは、改良型の4代目。小型カメラの映像から探査済みの区域を分析、表示する機能を小型化し、すべての操作が1人でできるようにした。実用段階の第1号となる。探査漏れのチェックが簡単にでき、旧紛争地の不慮の事故を減らせる見込みだ。

従来の探知機は、あらゆる金属片に反応する上、警報音でしか知らせることができなかった。地雷の発見確率は金属反応1000回に1回程度で、探査面積も1人当たり1日数平方メートル程度だった。一方、ALISは地雷の形に近い金属片だけを選び出せる。昨秋にシベニク北部の実験場で行われた実証実験では、地雷の発見確率が2倍に上がることが確認された。作業時間も3割以上短縮できるという。

国連は地雷除去の新世代機としてALISに期待する。17日の実演には60カ国300人の政府代表や非政府組織(NGO)関係者が参加。「機械操作の訓練にどのくらい時間がかかるのか」と

いった質問が相次いだ。

来年にもイタリアの企業が新装置の生産に乗り出す予定で、1台150万－200万円になる見込み。佐藤教授は「旧紛争地の暮らしははまだ危険と隣り合わせ。将来的には作業効率を10倍以上に高めたい」と話している。

### 民間の利用も可能 国連・フラナガン部長

国連の平和維持活動(PKO)局地雷対策サービス部(UNMAS)のジョン・フラナガン部長(43)に新型地雷探査装置(ALIS)への期待などについて聞いた。地雷はアフガニスタン、カンボジア、スーダンなどを中心に全世界に1億個以上残っています。埋設場所はジャングルだったり、石ばかりの土地だったり、泥地だったり、さまざまです。そうした危険地帯は住民の生活場所に隣接し、効率的な除去装置が必要です。ALISは地雷かどうかを画像で見分けることができるので、旧紛争地の民間団体も使いこなすことができると期待しています。

#### 動画＝ニュース コンテンツ一覧

- [梢高く白い「ハンカチ」開花 北大植物園\(2008/05/16\)](#)
- [滝上町のシバザクラ 斜面いっぱい花開く\(2008/05/15\)](#)
- [阿寒湖温泉でOKIさんがトンコリのライブ\(2008/05/14\)](#)
- [ピンク色 ふんわり 藻琴山温泉芝桜公園\(2008/05/14\)](#)
- [サハリン・利礼航路の新ターミナルが「船出」\(2008/05/13\)](#)
- [羽幌から関東へ 鳩8300羽がスタート\(2008/05/12\)](#)
- [光浴び夜桜あでやか 音別「憩いの森」\(2008/05/12\)](#)
- [田中義剛さんの花畑牧場がホエー豚を飼育\(2008/05/09\)](#)
- [増毛の国道に巨岩落下 留萌開建が調査\(2008/05/08\)](#)
- [倶知安の殺人事件で不明の長女を川で捜索\(2008/05/07\)](#)

[すべての記事\(93件\)](#) | [もっと見る](#)

[著作物利用について](#) | [リンク](#) | [個人情報](#) | [お問い合わせ](#) | [広告について](#)

[↑ このページの先頭へ](#)

ホームページ内に掲載の記事、写真などの一切の無断転載を禁じます。

ニュースの一部は共同通信、AP通信などの配信を受けています。

すべての著作権は北海道新聞社ならびにニュース配信元である通信社、情報提供者に帰属します。

**北海道新聞**

Copyright(c)1996-2008 The Hokkaido Shimbus  
Press.